会　議　録

標　　題	令和７年度第２回新ひだか町地方創生推進委員会の開催について
日　　時	令和８年３月２７日（金）　１３：３０ ～ １５：４５
場　　所	新ひだか町役場３階　第２会議室
出 席 者	【委員】７名（詳細は別紙出席者名簿のとおり） 【 町 】（企画課）樋爪課長、中村補佐、髙野係長
内　　容	令和７年度第２回新ひだか町地方創生推進委員会を開催しましたので、下記のとおり顛末します。 記 １　開　　会 （１）本委員会の役割・人口動向について 本委員会については、まちの人口減少対策について、行政だけではなく、各分野の皆さんからご意見やご発想をいただいてより良いものにしていきたいというもの。 合併時に 27,265 人いた人口が、令和 6 年度末で 19,885 人となっており、直近の令和 7 年 2 月末では 19,711 人ということで減少が進んでいる。年齢区分別にみると、0 歳から 14 歳の幼少人口は、平成 17 年度末に 3,819 人いたのが、令和 6 年度末には 1,960 人となっており、平成 17 年から令和 6 年の 19 年間で約 1,900 人減少している。15 歳から 64 歳の生産年齢人口、働き手となる世代の人口は、平成 17 年度末で 16,845 人いたのが令和 6 年度末で 10,742 人と、約 19 年間で約 6000 人（約 36%）減少している。高齢人口は、平成 17 年度に 6,601 人で令和 6 年度末は 7,189 人と合併当時より増えているが、令和 6 年度から高齢者の人口も減ってきている状況である。 今から 16 年後の 2040 年には総人口は 1 万 4 千人台になるのではないかと推計されており、特に幼少人口と生産年齢人口がかなり減っているというのが今の状況である。 当町の将来人口の展望は、人口減少が今後も進むことを認めつつ、その速度をいかに遅くするかという視点によるべきと考え、「新ひだか町人口ビジョン」というものを策定し、2040 年（あと 14 年後）における人口を１万５千人以上に留めることを目標として掲げ、それを実現するための戦略「アクションプラン」として「新ひだか町創生総合戦略」を策定し、４つの基本目標を掲げ様々な分野で取組んでいる。 少しでも町に人が残り、この地域の活力として活動してもらうためにはどうしたらいいかというのが、地方創生の取り組みであり、地方創生

	推進委員会の役割としましては、その総合戦略に基づいて町が行う各種施策の実績や成果などを、行政だけではなく、町民や各分野の皆さんのご意見、ご提案、ご発想もいただきながら、より良いものにしていきたいと考え、委員会を設置している。 ここで何かを決定するということではないが、前向きなご意見をいただき、町はそれを持ち帰って次の動きに活かしていきたいと考えているため、皆さんの自由な考えや思っていることをざっくばらんに話してもらえればと思っている。 2　議　　事 （1）副委員長の互選について （立候補者がいなかったので事務局提案） 副委員長：三浦　省吾（日高信用金庫） （2）第２期新ひだか町創生総合戦略に基づく各種事業の効果検証について ①総合戦略に基づく各種事業の効果検証 （事務局より基本目標ごとに事業について説明） ②企業版ふるさと応援寄附に関する地域再生計画の効果検証 （事務局より事業について説明） ◆委員からの意見・提案等 【基本目標①新ひだか町の未来をけん引する人づくり】 （酒井委員）令和８年度における静内高校の入学生は 144 人となっており、私立高校の実質無償化によりもっと少ないかと思ったが、目標値（150 人）に近い人数がいて良かったと思っている。札幌圏では、かなりの人数が私立高校に流れたと聞いており、静内高校の入学生があまり減らなかったのは、地域の方々が協力してくれたおかげだと思っている。 ただ、今後もさらに生徒数が減少し、間口も減ってきてしまうと、1 間口減るごとに教員が 2 名ずつ減らされるため、開講できる科目を削減するなどの教育課程を大きく変えなければいけない状況や部活動も減らさなくてはいけない状況になってしまう。それを防ぐために、事務局の説明にもあったが、ふるさと教育が非常に重要だと思っている。令和８年度から静内高校では、新たに「静高タイム」という授業を新設し、地域と交流する時間を設けることで、生徒に新ひだか町のことを知ってもらいたいと考えている。 また、新ひだか町・新冠町以外の町からも生徒が来てもらえるようにしたいと思っている。現在は、全国からの募集ができない状況にあるが、静内高校に昨年、馬術部を創設したため、それを看板に全国から生徒を募集できればと考えていた。 （大山委員長）私の出身は苫小牧であるが、苫小牧には全国からアイスホッケーをするために、中学校に進学するタイミングに家族単位で来られている。高校受験は、苫小牧市民として苫小牧にある高校に進学し、その先は元々いた地域

	や本州などに行き、さらに上を目指すような仕組みが成り立ってきている。 　現在、65 歳以上の方の割合が 30%くらいの割合であり、15 歳未満の若年人口が 10%の割合となっているが、10%には学校に通えない不登校生徒なども含んだ割合となっている。不登校生徒も年々増えていると聞いているため、しっかりと社会復帰ができるような仕組みを作ることが必要であると感じた。 【基本目標②新ひだか町の魅力発信と町に関わる人づくり】 （南委員）新ひだか町に移住して 10 年目となり、これまで移住を検討されている方などと交流する「移住カフェ」などに参加してきた。新ひだか町は住みたい田舎ベストランキングにランクインするなど、評価されつつあり、馬カルフェスで受付をやっていた際も、関東から来られたご家族が本気で移住を検討している様子も見られた。 （中村委員）日高山脈で国立公園化されたことで観光客は来るものなのか。 （事務局）観光客が増えることを期待している。日高管内全体を見ると国立公園化により、普通の観光客ではないが、登山者が増えているという話は耳にしている。当町からは道道の通行止めにより国立公園区域に入っていけないため、市街地側で体験・滞在型観光の検討を始めたところである。ただ、国立公園化だけでは観光客を増やすことは難しいと感じている。 （南委員）テレビドラマのロイヤルファミリー効果はあったのか。 （事務局）ホテルの宿泊客が増えている話も聞くため、その効果もあると感じている。 （大山委員長）国立公園化の宣伝を、ここに生活していてもなかなか目にする機会がなかったが、そのようなことは行ったのか。 （事務局）日高地域では日高振興局が中心となってのぼり（旗）を作成し、国道沿いの街灯にのぼり（旗）を垂らすなどの宣伝や、小さいステッカーをお土産品に貼るなどの宣伝を行ってきた。環境省でも、PR 動画を作成するなどの取組は行っているが、当町として国立公園化関連の宣伝品を作ることは難しかった。 （大山委員長）人を呼び込むことができる宣伝となると、民間レベルでしかできないことなのか。町が先導していくことでできるのか。 （事務局）日高管内では、各管内の町長と観光分野の企業等の代表者が集まり、意見交換を行う場面を設けている。当町としては、長期にわたって地域で観光等を生業として活性化してほしいという思いがあるため、行政が主導ではなく、民間企業等が主導となってやっていただきたいという思いがあるが、母体となる組織があるわけではないため、そこがどうしようかというところ。 （中村委員）富士山や高尾山には行列ができるほど人が来ているが、このようなイメージではないということか。 （事務局）そのようなイメージではない。この地域の山は非常に難易度が高い。現在、十勝と日高の関係市町村と北海道庁で構成された協議会を設置し、まず

	は、初級者・上級者向けなど、山の難易度をすみ分けることとしている。本州には、サンダルやスニーカーで登れるくらい、登山道が整備されているところもあるが、日高山脈には軽装で登れる山はなく、今後は整備が必要な箇所だけを整備する程度であると思われる。 （大山委員長）国立公園化によるメリット、デメリットが町民の方々に伝わっていないような気がする。 （事務局）メリットはたくさんあるが、自然が守られることが一番だと思う。 （中村委員）今後は国立公園化が凄いということを打ち出していくことが重要。 （事務局）その地域に、宿、食べ物、見学先、登山口などのコンテンツがあれば選ばれると思う。それを管内でやっていかなければ、魅力がないと思われてしまうため、そこをどのようにしていくかを関係団体が協議をしているところ。この部分は、今後、皆さんに共有していきたい。 【基本目標③未来を担う若い世代の希望実現と親子の絆づくり】 （南委員）今回、婚活イベントがなかったということで、過去に開催した際に委員会で中村委員と一緒に実施したことがあるが、現在、全国で愛媛県方式の婚活が注目されており、AI でマッチングをして、そのあとは縁結びサポーターがサポートする方法がある。その縁結びサポーターだったらできると考えており、役場などで AI を導入するなど、最初のアクションを起こしていただければ、次のサポートができると思った。 　現在、親子サポートの委員をやっており、この前、親子サポートの集まりで「ファミリーサポート制度」の話が上がった。新ひだか町で行っている子供を預けられる制度は、小学生以上は預けられなく、土日の利用も不可、母親等のリフレッシュなどの理由でも預けられない制度となっているが、「ファミリーサポート制度」だと、利用者が料金を支払う形になるが、小学生も預けられ、土日も利用可であり、どんな理由でも預けられるため、そのような制度にならないかという話になった。この制度は色々な市町村で導入されており、以前住んでいた町でも実施していた。社会福祉協議会の職員からは、税金を使っているため、「ファミリーサポート制度」のような内容にはならないと聞いた。 （夏井委員）関係人口をどうやって増やしていくかは、住民幸福度が関係していると考えており、住民幸福度が高いと観光客がたくさん足を運ぶようになる。幸福度が日本で１番高い町になった東川町は、住民の方々が凄く楽しんでいる印象で、それが周りにも伝わり、来る人が「何かいいよね」と思える町になっている。そういう町になれば、U ターンする学生が増えてくると思う。 （三浦委員）住みたい田舎ランキングの子育て世代部門で、全国 10 位にランクインしているが、民間企業の調査ではあるが本当だと感じている。色々な会議に出席しているが、子育てに関してすごい真剣に議論されており、こんな町は滅多にないと思っている。ランキングのことをもっと発信していけばいいと思う。

	【基本目標④人口減少下でも心豊かに暮らせる地域づくり】＋全体を通して （南委員）新ひだか町の町長選挙、町議会議員選挙の話になるが、この選挙の時だけ選挙公報の配布がなく、誰に投票したらいいかわからない。令和８年４月の選挙には間に合わないと思うが、次の選挙から選挙公報の配布や町 HP に目指している事項を記載するなどの対応をとって欲しい。 （酒井委員）今年も静内高校の卒業生が 100 名程度転出し、それをどうにか収められないかなと考えていた。実現は難しいと思うが、馬などを研究する場を提供し、大学や専門学校を誘致できないかと考えていた。アイデアとして聞いてもらえればと思う。 （南委員）空き家対策の問題で、平取町では地域おこし協力隊を導入し空き家の売り買いなど、きめ細やかに動かれているようだった。新ひだか町にも沢山の空き家があると思うので、地域おこし協力隊を活用して、そのような取組をしてもいいと思う。 【企業版ふるさと応援寄附に関する地域再生計画の効果検証について】 ・企業版については特になし。 【その他】 （夏井委員）出生率は下がっているが、U ターンなどの戻ってくる方が多くなればいいと思う。今は外国人の増加で支えられている。 （大山委員長）U ターンされるかは、民間企業も含めた受け皿の問題だと感じている。ランクアップした人が戻ってくるだけの待遇を出せる企業がこの地域に何社あるかだと思う。 （事務局） ・日高管内の人口動向やU ターン人数など、把握できない人数はあるが、もう少し全体の数字を調べる必要があると感じた。 ・住みたい田舎ランキングや国立公園化などの情報をどのように発信していくかについても、数値含め工夫していく必要があると感じた。 ・婚活イベントについては、総合戦略にも記載し、取り組みたいと考えていたが、実施に至らなかったため、参考にさせていただきたい。 ・住みたい田舎ランキングでランクインされたことで地域の方々が喜んだと聞き、これの認知度を上げるために、それに乗っかっていけるような取組も検討していきたい。
備　　考	